

提出 順番	No. 1	令和 7 年 5 月 27 日 午前・午後 4 時 06 分受領
----------	----------	-------------------------------------

令和 7 年 5 月 27 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 内山 美穂子



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 幕別清陵高等学校が更に魅力ある学びの場になるために	この春、幕別清陵高等学校は4期生が卒業しました。幕別町で学んだことに誇りを持って、次のステージに旅立ったことでしょう。 高校の誕生時のことを振り返ってみますと、本町では、平成27年10月、「幕別町後期中等教育を考える懇話会」を設置し、町内の高校に関する中長期的な展望について検討を行い、28年6月に高校存続に向けた提言などを盛り込んだ報告書が提出されました。これを受けて、町と教育委員会で検討を行い、本町における高校教育が安定的かつ持続可能で、生徒・保護者が求める高校の確保を図るため、江陵高等学校に対し、幕別町内の高校の再編等について要請を行い、同意が得られたことから、平成29年4月、北海道教育委員会に対し、幕別高等学校と江陵高等学校の再編統合に関し要望を行い、31（2019）年4月に開校した、という経緯になります。 このように公立の幕別高等学校と私立の江陵高等学校が一つになって新しい道立高校が誕生したのは画期的なことであり、この幕別町で、高校生がこれまで以上に生き生きと青春を過ごし、また、まちづくりに大きな力となるとの期待が集まりました。 これまでの高校の活動をみますと、地域連携プロジェクトやスポーツなどを通じて町とのつながりを深め、地域に根ざした多彩な取組が浸透しつつあるように思います。この一方で、少子化の影響で、十勝管内の中学校卒業生数が2028年に

	は対前年で131人の減少（幕別は59人減）が見込まれ、また、私立高校授業料無償化の要件拡大などに伴い、今後はさらに入学生が減少する見通しもあります。幕別清陵高等学校が選ばれる魅力ある学びの場となるために、町の一層積極的な関わりや支援が求められるのではないかとこの観点から、以下について伺います。 (1) 幕別清陵高等学校に対する町の認識は。 (2) 卒業生の進路状況は。また、進路の多様性についてどのような支援が行われているか。 (3) 遠方からの通学が困難な生徒への住まいや食事の確保についての現状と、使われていない教職員住宅などを活用して、ニーズに応える考えは。 (4) 生徒の通学手段の現状と今後の支援策は。 (5) 魅力ある高校づくり支援事業補助金の取組内容と今後の活用方法は。 (6) 「地域連携マイプロジェクト」をはじめとする高校と地域の連携機能の充実と継続に向けた、町の支援体制とコーディネーター任用の考えは。
2 札内駅駅舎の利活用について	令和7年第1回定例会において、町長からの行政報告として、JR北海道が全道で進める窓口業務の機械化による路線維持のため、令和7年10月1日から札内駅を無人化にする方針が打ち出された旨の説明がありました。 札内駅は明治43年に開業した駅で、利用者の減少傾向は続いています。現在も町民の通学・通勤などの足として重要な交通インフラになっています。駅員がいなくなることによって駅の機能の縮小や駅前の衰退が懸念され、地元として、その活用を図ることなどについて、打ち出しをしていくべきと考えます。そこで、この札内駅について、まちづくりの観点から、以下の質問をします。 (1) 無人化に伴う防犯・安全対策について、町としてどのような基本的考えを持っているか。 (2) 駅舎を町としてどのように活用していく考えか。今後の取組方針は。 (3) 地域の人をはじめ多様な人材を巻き込んだ協議会などを設置し、札内駅を起点にした札内地区のまちづくりの

	アイデアを募りながら、活用法の検討をしていくべきではないか。
--	--------------------------------

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。